

岩手県田野畑村 & 早稲田大学 【国際協働型】地域連携ワークショップ^o 2026

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光……自治体が抱える課題の解決策を提案する、実践型ワークショップです。事前調査により仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリング等を通して、最終提案につなげます。国際協働型では、日本人学生と外国人学生がチームを組み、多様なバックグラウンドを持つ仲間と、お互いの文化や価値観を尊重しながら議論をぶつけ合い、地域の魅力を知り、課題を深く考え、協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 村の健康課題の解決、観光振興、地域活性化につながる政策立案に携わることが出来ます。
- 村長をはじめ村役場や地域住民の方々に直接ヒアリングする貴重な機会があります。
- 国籍を超えた仲間との出会いと、国際チームでの協働および母国語以外でのコミュニケーションに挑戦できます。
- グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」実践領域の対象プログラム（2単位相当）です。（注意事項^o要参照）

クアオルト健康ウォーキングで地域活性化！

～村民が幸せに暮らし続けられる村&クアオルト体験を目指して訪れたい村～

テーマ

田野畑村は、岩手県沿岸北部に位置する人口約 2,700 人の農山漁村で、65 歳以上の人口割合は 46%です。村の健康課題として「運動習慣がある人が少ないこと」「健康寿命が全国平均より 2 歳以上短いこと」が深刻な課題となっています。村保健センターでは毎週 1 回「貯筋運動教室」を実施していますが、参加者が固定化していることが課題となっています。また、「歩くこと」が健康に良いと頭ではわかっていても、何かきっかけがないと始めたり習慣化するのが難しかったり、やらない理由の方を見つけてしまったりと、歩く村民が少ないのが実態です。


そこで、本ワークショップでは、森林空間を健康づくりに活用する「クアオルト健康ウォーキング」や、田野畑村の現状を理解した上で、田野畑村でクアオルト健康ウォーキングを定着していくための工夫や仕掛けを提案していただきます。田野畑村ならではの豊かな森林と海の資源を活用して、村民が幸せに暮らし続けられる村、村外からのクアオルト健康ウォーキングを体験するために訪れたいと思ってもらえる村にするための仕組みを考えましょう。

田野畑村の魅力

田野畑村は、岩手県にある海と山に囲まれた小さな村です。「海のアルプス」とも呼ばれる景勝地「北山崎」があり、高さ 200 メートルの断崖から迫力ある海の景色が楽しめます。村の海岸沿いは「みちのく潮風トレイル」のルートにもなっていることから、国内外から多くのハイカーが訪れます。ウニやワカメといった海産物やたのはた牛乳、たのはた鴨など、海と大地の豊かな食材が魅力で、季節ごとに旬の味わいが楽しめます。また、漁師の船に乗船したりみちのく潮風トレイルと一緒に歩いたり、村民ガイドが村の自然や歴史、文化についてお伝えする体験型観光も人気です。田野畑村では、大学公認サークル「思惟の森の会」が 60 年以上村で地域交流を行っていて、村民にとって早稲田大学の学生は身近な存在です。



募集概要

募集期間	2026年5月29日（金）～6月17日（水）正午 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に在学中の正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと
募集人数	8名程度
応募方法	<p>1. 事前説明会（オンライン）【応募の際には必須参加】 日程：5/29（金）、6/3（水）、6/11（木）、6/16（火）12:30～12:50（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メール、GCC オフィス Web および Instagram でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記3日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加任意となりますが、事前相談会（12:50～13:10）も上記日程で実施します。</p> <p>2. 事前説明会参加後、以下の手順もしくは右のQRコードのリンク先から応募</p> <p>① MyWASEDA にログイン ② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2026 夏編」を検索 ③ 「地域連携ワークショップ 2026 夏編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請</p> 
選考方法	書類選考：結果通知は 2026年7月1日（水）までにWasedaメール にて通知します。
注意事項	<p>① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。</p> <p>② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、田野畑村内となります。</p> <p>③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。</p> <p>④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないように措置を講じてください。</p> <p>⑤ 現地調査自己費用負担：往復交通費（自宅⇔現地集合場所）・宿泊費・食費等 <交通費目安> 東京駅～盛岡駅～宮古駅 片道 17,210 円（新幹線／指定席、在来線） <宿泊費> ホテル羅賀荘（相部屋、朝食夕食付） 8,000 円/泊 ※但し、後日村から往復交通費、宿泊費、現地活動費（食費除く）として約半額の補助、さらに大学から地域連携ワークショップ活動助成金としての補助があり、交通費、宿泊費等の自己負担額は10,000 円程度になる見込みです。</p> <p>⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。また、同時期に実施する地域連携スタディツアーに参加が決定している場合も応募はできませんのでご注意ください。</p> <p>⑦ 当【国際交流型】ワークショップは通常の地域連携ワークショップと併願することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。【国際交流型】ワークショップに応募し、選考を通過した場合はその時点で他のワークショップには参加できなくなります。</p> <p>⑧ 早稲田大学の学生補償制度（傷害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。</p> <p>⑨ ワークショップ実施日と重複する正規授業等を欠席した場合でも、公欠扱いとはなりません。</p> <p>⑩ グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」^(注1)の対象プログラムです。 注1：2026年9月卒業予定で副専攻修了を目指される方は、認定手続きのスケジュールの都合上、副専攻の単位相当にはなりませんので、ご注意ください。</p> <p>⑪ ワークショップでは連携先、大学がInstagram等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。あらかじめご了承ください。</p> <p>⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※プログラム内容等は変更が生じる場合があります。</p>
問合せ先	Office of the Global Citizenship Center（GCC オフィス）： rbs0@list.waseda.jp ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

授業等により、やむを得ず欠席／遅刻／早退となる可能性がある場合は、その日程と理由を応募の際にお知らせください。

	予定		日程	内容
①	オリエンテーション @早稲田大学	事前調査期間	7/16（木） 17:30～20:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者から、課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明
②	交流会 @早稲田大学		7/20（月） 17:30～19:30	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・チーム発表 ・その他事務連絡
③	プレゼンション @早稲田大学		7/23（木） 17:30～20:00	・国際協働型 PBL プログラムについて ・グループワーク
④	オンラインヒアリング （@zoom）		8/3（月）	・現地調査に向けて、仮説検証等に必要ヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようしてください。
【事前調査期間】				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・オンラインヒアリングの希望先、質問内容等を検討し、7/27（月）正午までに自治体へ提出 ・現地ヒアリングに関する事項（希望先、質問内容等）を検討し、8/5（水）正午までに自治体へ提出 ※提出後、8/12（水）まで追加・修正可能。村長への質問項目もこの日までに自治体へ提出				
⑤	現地フィールドワーク @田野畑村		8/26（水） ～8/29（土） 【3泊4日】	<ul style="list-style-type: none"> ・クアオルト健康ウォーキングの座学、体験会を実施 ・事前に希望した方々等へのヒアリングを実施 【村長懇談：8/28（金）予定】
⑥	対面グループワーク @早稲田大学	追加調査期間	9/3（木） 10:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会前にグループワーク ※左記のうち 10:00～12:00 はコアタイム ※そのほかの時間帯は参加学生間での調整となります
⑦	中間報告会 @早稲田大学		9/10（木） 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑧	対面グループワーク @早稲田大学		9/14（月） 10:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会での指摘を踏まえてグループワーク等 ※左記のうち 10:00～12:00 はコアタイム ※そのほかの時間帯は参加学生間での調整となります
⑨	プレ報告会 @早稲田大学		9/17（木） 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会に向け発表練習 ※報告会後はグループワーク用に会場開放予定
【追加調査期間】				
<ul style="list-style-type: none"> ・現地フィールドワークや中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえ、提案の再検証およびブラッシュアップ 				
⑩	最終報告会・振り返り会 @早稲田大学		9/25（金） 14:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・首長や自治体関係者や地域住民の方々（@ハイブリッド）に向けて提案を発表（約 2 時間） ・最終報告会后、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）

※上記公式日程以外でも、必要に応じてチーム内で相談・日程調整をし、自主的に活動（ミーティング・グループワーク・追加ヒアリング等）の上、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
- 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化
↓
- 現地調査・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
- 最終提案資料作成：
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での
打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができ、意見を出すことの躊躇いなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々それぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしやることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていき延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）